

心豊かに たくましく (教育目標)

—地域に愛され、地域と共に歩む学校を目指して—

県立銚子特別支援学校

1 本校の概要

(1) 学校の場所と環境

本校は、JR総武本線銚子駅の南方6km、断崖の屏風ヶ浦の上に位置し、周囲は畑が多く、学校周辺(三崎町3丁目)の民家が150軒で、近くに「イオンモールショッピングセンター」もあることから新築の建物が徐々に増えてきている環境にあります。隣接の特定非営利活動法人「あおぞら三崎(障害者の生活介護事業所:身体・知的・精神・車椅子)定員:20名」、「銚子児童発達支援センターわかば(障害児が日常生活における基本的動作及び知識技能を習得し、並びに集団生活に適応することができるよう効果的な指導及び訓練を行う施設):一日の利用定員20名」があり、コロナ禍前までは、毎年、小学部との交流をはじめ双方の見学会や職員研修が継続されてきております。また、地域住民は、皆さん穏やかで、キャベツや大根の野菜を栽培する大きな農家や漁業を営む方もおり、本校が開校以来、コロナ禍前までは、高等部の生徒が町内行事(町内会主催のグラウンドゴルフ等)に参加するなど、町内会との交流がありました。

標高58mという高台で眼前が太平洋ということで年間を通じ風が強く、4年前の台風19号接近時には寄宿舎棟の窓ガラスが割れ、そこから雨風や泥が室内に侵入し、一週間近く舎泊を停める事態となりました。また、その時は10月三連休でしたが、三崎町内で一次避難(三崎町青年会館)に入りきれなかった住民14家庭が本校に避難し、二日間の避難所を開設した経験もあります。



(2) 通学区域と生徒数

肢体不自由児は、銚子市、旭市、匝瑳市、香取市、東庄町、横芝光町(横芝地区を除く)の5市2町が通学区域となっており、知的障害児は、銚子市が通学区域です。

幼児児童生徒数は、幼稚部1名、小学部43名、中学部23名、高等部19名の計86名が在籍しています。障害種別では、知的障害児53名(61%)、肢体不自由児30名(35%)訪問対象児4名(4%)です。子供たちは、どの子も皆、素直で明るく、何事にも前向きで学習活動に精一杯取り組んでいます。

(3) 寄宿舎の概要

寄宿舎には現在10名(中学部4名、高等部6名)の生徒がおります。個々の舎生の自立に向けた基本的な生活習慣の確立と社会性の育成を図ることを運営方針に掲げ、保護者の協力のもと、主体的で魅力ある生活を作り上げ日々取り組んでいます。いずれの舎生も生活の自立を目指すことを入舎の理由とし、できる限り自分の力で、洗濯や入浴、清掃や身支度などに取り組んでいます。その他にも委員会活動や部屋別活動、寄宿舎行事等を通じて集団生活を送る上で必要なこと

を学んでいます。また、余暇時間にはタブレットやテレビでスポーツ観戦を楽しんだり、体育館やグラウンドに出てバスケットボールやボッチャ等の球技を楽しんだりしています。食事の提供については、自校給食で通学生徒と同じ昼食に加え、朝食（午前8時提供）、夕食（午後5時提供）も提供しています。舎生は、このような寄宿舎での生活を送りながら月曜から木曜まで舎泊し、金曜日に帰省する形を取っています。支援体制としては、寄宿舎指導員12名、舎監16名がおります。月曜日から木曜日までは教員1名が舎監として輪番で宿直し、寄宿舎指導員3名と協力し宿直業務にあたっています。また、安全対策では、舎の防災訓練、不審者の侵入に備える等の緊急時対応訓練及び施設設備や施設周辺の点検を定期的実施し、安全に配慮した生活環境の維持と修繕にも努めています。保護者との連携についても必要不可欠ですので、毎日の連絡帳でのやりとりや保護者会以外にも、寄宿舎全体で行うお楽しみ会やクリスマス会など年10回程程度の行事にも保護者をお誘いし、舎生と共に楽しく参加していただく中で、家庭とは違う舎生の様子をご覧いただいております。保護者からは、「家で生活していた時よりもたくましくなってきた」と、保護者会の中で感想を述べられていました。



<洗濯に取り組む様子>



<余暇活動 映画鑑賞>



<夜の集いの様子>

(4) 自立活動部

本校の特徴として、自立活動部があります。これは、幼児児童生徒が、主体的によりよく、よりたくましく生きていこうとする力を育てる学習活動に、学級担任と連携して、「健康の保持」「心理的安定」「人間関係の形成」「環境の把握」「身体の動き」「コミュニケーション」の項目に関することを対象の幼児児童生徒の教育的ニーズに応じて取り組んでいます。自立活動部の職員数は3名（男1名35歳、女2名44歳・39歳）です。定期的、計画的に専門性の向上を目指し、国保旭中央病院から理学療法士等の外部講師を招聘しています。

本校の職員構成は20代から30代の経験の浅い職員が36%を占めています。このような若い職員にとっては、自立活動部の職員が心強い存在となっています。本校の自立活動部の職員は年齢差関係なく分け隔てなく、的確なアドバイスをもらえると評判です。保護者からも「自立活動部の存在はありがたい」との感想も述べられています。



日課の歩行訓練「がんばれ！！」

(5) 通級による指導

令和3年度から肢体不自由児だけでなく、小中学校に在籍する視覚、聴覚障害、病弱の児童生徒を対象とする通級による指導を実施しています。現在、対象児童生徒の状況は、肢体不自由（13名）、視覚（4名）聴覚・病弱（0）ですが、教育相談の件数は3年前に比べますと4件から9件に増えています（視覚：旭市立中央小学校、旭市立三川小学校。聴覚：旭市立海上中学校、匝瑳市立八日市場第二中学校、香取市立山田小学校、町立光小学校。肢体：匝瑳市立平和小学校、町立日吉小学校、町立東庄小学校）。また、当該校の職員研修（香取市立小見川中央小学校）におけるオファーも多く、総合的な機能を有する地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たす本校の機能拡大を図っているところです。

(6) 児童生徒・保護者からの要望

本校は、昨年度、創立60周年の記念の年を迎えましたが、それに伴い、校舎内の施設設備の老朽化（水道ポンプ管の故障、エアコンの故障、照明機器の故障等）が進んでいます。本年度の夏は、エアコンの故障により室温が30度以上の日が約60日もあり、子供たちの体調にも影響しており、保護者や教員からそれを懸念する声や早急の改修工事を求める声が高まっています。

その他では、本校は昨年度（令和4年度）から、ICTの利活用をした授業の充実を目指し全校研究テーマと絡めて研究に取り組んでいます。また全教室におけるWi-Fi環境が整っていない状況です。具体的には、寄宿舎棟と体育館、特別教室（自立活動室、プレイルーム、給食室）でWi-Fiが飛ばないため、インターネットを使った学習活動ができないことが課題となっています。

2 研究指定

本校は、平成22年・23年度に文部科学省委託事業・千葉県特別支援教育推進事業「**地域で共に学び育つ機会の充実を目指した特別支援学校と小・中学校との交流及び共同学習の在り方について～居住地校交流の取り組みを中心に～**」を研究テーマとし、研究事業を銚子市立春日小学校、銚子市立飯沼小学校、銚子市立豊里小学校の三校を研究協力校として連携し、両校の子供たちに意義のある交流を目指し成果をあげました。その成果は、平成23年、国立総合研究所における研究実践発表、「日本教育新聞」「千葉教育」「実践特別支援教育」「特別支援教育学級経営12か月（東洋館出版社）」で取り組みの掲載、県立千葉特別支援学校の「交流及び共同学習」をテーマとした職員研修への講師派遣など、県内の特別支援学校からも高い評価を得ることができました。



H24年2月13日「日本教育新聞」

3 地域との交流

上記1（1）に示した通り、本校は屏風ヶ浦の上に位置し、町内のある三崎町は、住民の数は597名、261世帯で、多くが65歳以上の高齢者です。

今年度の地域との交流としては、清掃活動を年4回（1学期に2回、2学期1回、3学期1回）実施し、三崎町内会長をはじめ、地域の町民から「町がきれいになって嬉しい」等の声が挙げられています。

本校文化祭「銚洋祭」は、令和5年度までは保護者のみの招待になっていましたが、令和6年度からは地域の皆さんも招待し、交流を深めています。

（1）地元企業との交流

令和5年度、地元の企業である銚子信用金庫本店との交流を行いましたので、以下紹介します。

（2）きっかけ

銚子信用金庫は、SDGs「豊かな地域社会の実現（障害者の方々が安心して暮らせるまちづくり）」の取り組みの一環として本校の児童生徒・保護者を当金庫8階ロビーへ招待し、花火大会の臨場感を味わっていただく企画を実施しました。4年前の令和元年度にも同企画がありましたが、コロナ禍となり中止になっていました。今回、当金庫から再度の案内と本校の地域交流の拡充の想いが合致して、今回の実現に至りました。

（3）準備時の思い出

銚子信用金庫の招待者数は40名程度でしたが、いざ各家庭に募集したところ、100名を超える応募がありました。駐車場の確保の問題、エレベーター内のスペースが狭く「大勢となると時間差での観賞も止む無しか」など、様々な課題が発生しましたが、金庫職員と本校職員が協力し、駐車場の誘導、車いすを使用している児童生徒の安全の確保、ロビー内の安全な観賞対策などを検討し万全を期す必要がありました。最終的には、108名の児童生徒・保護者（御家族）の来場となりました。当初は時間差での鑑賞を検討しましたが、8階ロビーに隣接する広い会議室や応接室も開放していただいたことで一斉鑑賞が可能になり、職員一同安堵しました。

（4）当日の様子

当日は、銚子信用金庫職員と本校職員が協力し、駐車場の誘導8名、エレベーター支援4名、8階ロビー内10名（信金職員6名、本校職員4名）を配置し、安全対策を徹底しました。また当日は、午後5時前から当金庫内で直前打ち合わせを行い、その後は花火開始1時間前の午後6時から午後9時の解散まで金庫職員と本校職員が連携して運営にあたりました。

当日は児童生徒29名、保護者（御家族）79名が来場しました。

（5）参加した児童生徒・保護者等の声

重複学級（医療的ケア児等）の保護者からは、「親子水入らずで、貴重な体験をありがとう」「一般の市民の中では、こんなに落ち着いて観賞することはできなかった」などの声がありました。

職員からは、「臨場感あふれる花火を家族で観賞されている姿に涙が出た」などの声がありま

した。

(6) 波及効果

花火大会観賞会をきっかけに、銚子信用金庫との交流を継続し、地域の清掃活動や本校主催の学校を核とした「県内1000か所ミニ集会」への参加、高等部の「金融教育」の出前授業の計画を進めています。

3 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）設置への取組

(1) 校内説明

4月3日の第1回職員会議で、校長より令和6年度からコミュニティ・スクール（学校運営協議会）を設置する方針が示され、それに向けた設置準備委員会の立ち上げ、準備計画について説明がありました。

6月23日の第1回開かれた学校づくり委員会の中で、県教育振興部生涯学習課 学校・家庭・地域連携室員を外部講師に招聘し、「千葉県におけるコミュニティ・スクール」をテーマに研修を行いました。

同年7月26日は、本校教職員の全体研修会として、推進校である飯高特別支援学校の校長と教諭を外部講師として招聘し、「飯高特別支援学校における地域と共に歩む特色あるコミュニティ・スクールの実践」をテーマに研修を行いました。

(2) 地域住民への説明

10月4日には、第2回開かれた学校づくり委員会、地域合同避難訓練、「学校を核とした県内1000か所ミニ集会（地域防災をテーマに千葉科学大学危機管理学部教授の藤本一雄先生を外部講師に招聘）」を開催し、開かれた学校づくり委員会委員と地域住民との協議する場面を利用し、コミュニティ・スクール（学校運営協議会）設置に向けた協力を依頼しました。

本校職員の新たな取り組みへの戸惑い、不安等はなく、「地域との交流の拡大したい」「地域との防災教育の充実を目指したい」などの声が挙がり、協力体制が整いつつあります。

地域住民への説明は、開かれた学校づくり委員会や学校だよりを活用しています。なお、開かれた学校づくり委員会委員の中に町内会長がおり、すぐ理解していただきました。

(3) 銚子市教育委員会の快諾

4月4日、7月20日に校長は、銚子市教育委員会を訪問し、石川教育長と面談を行い、その中でコミュニティ・スクール（学校運営協議会）導入（設置）の快諾をいただきました。

今後は、委員の人選について相談していく予定です。

(4) 他の市の取扱い

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員の人選については、これからであります。本校小学部と学校間交流を長年継続している神栖市立波崎小学校の校長も候補に挙げられていますので、神栖市や銚子市外の学区との連携・協力体制も視野に入れ今後交渉してまいります。

(5) 設置準備状況と今後の予定

- 1 1月中 学校運営協議会設置同意書の提出
コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員候補者の選出
- 2月7日 第3回開かれた学校づくり委員会
コミュニティ・スクール（学校運営協議会）委員候補者の選定

4 広報・報道

- (1) 学校だより第5号「風車」 花火大会観賞会、地域清掃、高等部園芸班の取り組み等
- (2) 令和5年8月18日（金）地元新聞社「大衆日報」で花火大会の様子が掲載
- (3) 本校ホームページ コミュニティ・スクール（学校運営協議会）に向けた取り組みを随時更新

大衆日報

大衆日報社
 宮城県仙台市青葉区
 鉾子町青木町 3218-1
 電話 0479(25)0030
 FAX 0479(25)1100
 電子メール
 teacher@popwire.com.jp
 印刷料 1 万円 2,000 円
 郵 送 1 万円 3,000 円

銚子信金が「花火大会」に招待!



銚子特別支援学校の子どもたち・先生・保護者が銚子信用金庫 8 階ロビーから「花火大会」を観賞!

銚子特別支援学校の皆を 本店 8 階ロビーで臨場感!! 子どもたちも保護者・先生方も大感動

「フワフワ大きな花火が上がった!」と大興奮するのは銚子特別支援学校の子どもたち。銚子信用金庫本店(銚子市又野町) 8 階ロビーの特設席から銚子みなとまつりの「花火大会」の上方発の花火を鑑賞し、感動いっぱい!

「久しぶりの花火大会楽しんで」と森山博志理事長。コロナ禍を経て 4 年ぶりには銚子みなとまつり花火大会が 8 月 18 日(金)の晚、別荘湖畔で開催された。大人も子どもも大興奮。子どもたちも保護者・先生方も大感動。SDGs 推進チーム統括責任者の高橋孝博理事長は、久しぶりの花火大会を



銚子信用金庫 8 階ロビーに集合して「花火大会」にワクワクする銚子特別支援学校の子どもたち。

子どもたちも保護者・先生方も大感動。子どもたちも保護者・先生方も大感動。子どもたちも保護者・先生方も大感動。



銚子信用金庫本店 8 階ロビーから臨場感あふれる「花火大会」を観賞する銚子特別支援学校の皆さん。

子どもたちも保護者・先生方も大感動。子どもたちも保護者・先生方も大感動。子どもたちも保護者・先生方も大感動。



銚子特別支援学校の子どもたち・先生・保護者が銚子信用金庫 8 階ロビーから「花火大会」を観賞!

感謝しきりの榎原千明校長 銚子信金との交流を続けた!

「金融教育出前授業」も計画

榎原千明校長の元、故郷盛岡市には元用金庫職員で、現在盛岡市に在住されている。

「銚子特別支援学校の職員と呼びかけている。」

▼開催 全日程

▼設置場所 盛岡市

▼開催日 令和5年4月1日(創)

▼幼稚園部 1名

▼小学生部 43名

▼中学生部 23名

▼高等部 19名

▼生徒数 86名

(4) 今後の方向性

本年度の取り組みを基に、年度末に開催予定の第1回コミュニティ・スクール（学校運営協議会）のテーマを「地域との交流」「地域合同防災」とし、地域に愛され、地域と歩む学校づくりを進めてまいります。更に、報道機関への積極的な広報、町内回覧板の有効活用、学校公開時の活用など、戦略的な広報に努めてまいります。

5 今後の方針

本校は、昭和37年に銚子市立高神小学校の校舎を借りて、銚子市の特殊学級として発足され、また、昭和54年4月に県に移管されるまでは、銚子市立養護学校だった経緯もあり、古くから銚子市の義務教育（小中学校）、銚子市教育委員会との絆は深く、現在も銚子市教育委員会学校教育課のレターボックスに銚子特別支援学校のボックスを設置していただいている等、市内の小中学校との意義のある交流が継続されています。

平成22年と23年度に文部科学省・千葉県教育委員会から研究指定を受ける経緯も銚子市の小中学校と古くから交流が盛んに行われてきた本校ならその当時なかなか推進が図れていなかった「交流及び共同学習」の分野で成果を発揮できるのではないかと期待からであったことを思い出します。

コミュニティ・スクール（学校運営協議会）のテーマの1つである「**地域合同防災**」については、昨年度（令和4年度）の第2回開かれた学校づくり委員会の協議の中で、三崎町内会長から「コロナ禍前に実施していた地域合同防災を本校が主導して是非、行っていただきたい」との意見からスタートしています。

2つ目のテーマである「**地域との交流**」では、本校の幼児児童生徒に校内だけの教育効果だけでなく、校外に出るの様々な体験や地域との交流をとおして、自己有用感や自己肯定感を育んでもらいたい、そして、本校の学校教育目標である、学校を卒業した後の自立と社会参加の実現を目指し、心豊かにたくましい子供たちの育成につなげていきたいと考えています。

地域との連携・交流の取組

<銚子みなとまつり花火大会>



銚子信用金庫本店からお誘いを受け、本店 8 階ロビーで「銚子みなとまつり花火大会」の鑑賞会を実施しました。参加者からは、大変好評を得ることができ、「来年もぜひ」との声を多数いただきました。

<作業製品の納品活動>



園芸班、紙工芸班では、地域の方との交流として、それぞれ作業製品の納品活動を行いました。

<三崎町三丁目の清掃活動>



三崎町の町内会長様から、「ありがたい。ぜひ今後も続けてもらいたい。」との感謝のお言葉をいただきました。

<銚子駅の花壇>

花苗や培養土は、銚子駅前に花壇としてきれいに植えられており、銚子の街を華やかに彩っています。

